

三領域の扱い方の比重を変更

「世界」を調べ、発表してみよう

「話すこと・聞くこと」に重点を置き、「調べる」「話すこと・書くこと」を通して自分を豊かにする学習

- 教科書二年第一単元
- 世界に目を向ける
- 文章の展開をくらし、考えを深めよう (読四)
- 伝え合い・評論
- マドラーの地で、説明文 (書三)
- テーマに沿って考えよう
- 集めた情報をもとに、意見文を書く
- 立場を明確にして、話し合いに参加しよう(話・聞三)
- パネルディスカッションを開く

【十時間配】



一 基本的な考え方
学習のとらえ方

一学年の第二単元「世界に目を向ける」は、二つの学習材を読み、自分の意見を書き、パネルディスカッションをするという構成である。配当されている時間を有効に活用するために、調べたことを発表し合うことを通じて、自分の見方や考え方を広げたり深めたりすることに重点を置くことにした。また、全員が発表するようにしたので、パネルディスカッションは行わなかった。教科書では十時間配だが、九時間で計画している。

「世界に目を向ける」というテーマは、今日では中学生にも身近なものである。地球の反対側の出来事が、直接に自分の生活に影響するという体験をした者もいることだろう。習慣や考え方の違いを乗り越えて共存しようとする人間の姿に触れることで、中学生なりに見方や考え方を広げたり深めたりすることが期待できよう。

この学習で身につけさせたい力
この単元の具体的な学習活動は、

学習材『伝え合い』『マドラーの地で』を読み、そのことを通じて、世界のいろいろな国々や民族の言語文化・生活などに興味・関心をもつ。

テレビや新聞、インターネットなどのメディアで世界

知識を得たり、自分なりの意見がもてたりしたかどうかという視点で評価をしていくことである。

「努力を要する」状況にある学習者への対応

ワークシートの記入状況を観察することで、どの段階でつまづいているのかを指導者が把握できる。個別に助言するという対応が考えられるが、同じ段階でつまづく生徒が多いようであれば、全体に補足説明などを行う。

三 指導と評価の計画例(九時間)

第一次 (第一時・二時)	第二次 (第三時)
<p>学習材『伝え合い』『マドラーの地で』を読み、指導者の解説、および学習の流れの説明を聞く。 調べ学習の凡例やヒントの提示を受け、学習の方法を理解する。</p>	<p>ワークシートに学習材の初読の感想を記入する。 自分が興味をもち、調べてみようと思つた題材を決定し、その題材について、どのような方法で調べ学習を進めていくのかを考え、大まかな予定を立てる。 * 図書室やインターネットの利用など、いつでも、どこでもできるようにして資料を手に入れるかを考えさせる。</p>

二 観点別評価の進め方

「おおむね満足できる」状況と判断するための視点
「発想や認識のための材料」として情報を収集し、自分なりのもの見方や考え方を広めたり、深めたりすることができる「かどつか」という点が挙げられる。たとえば、その生徒がもっているもともとの知識が少なくても、その生徒なりに興味をもって調べ学習に取り組み、新しい

のさまざまな話題や生活・文化などを調べて発表する学習を通して、自身の「調べる力」と「発表する力」、「話を聞くこと」によって自分の考え方やもの見方を広めたり、深めたりする力」を伸ばす。
ことである。

「これらは中学校学習指導要領「A 話すこと・聞くこと」の指導事項の「ア 広い範囲から話題を求め、話したり聞いたりして、自分のもの見方や考え方を広めたり、深めたりすること。」「を意識した学習である。この単元では思い切つて「話すこと・聞くこと」に的を絞り、学習材に関心をもつたことをもとにした調べ学習とその発表の学習から、学習前と学習後での自分の思いや感想がどのように変化したか、深まったかということを生徒自身に振り返らせたいと考える。

「世界に目を向ける」ワークシート

(二年 組 番 氏 名)

一 初読の感想を書こう！
 (読んでみて、自分が興味をもった点をはっきりさせて書きましょう！)

二 興味・関心をもったことについて調べて発表してみよう！
 自分は _____ ということについて調べてみようと思う。
 調べる内容は _____ である。
 調べるものは (本なら題名、ホームページならアドレスなど)

四 発表後の感想を書こう！
 (初読のときと、何が違うかという点をはっきりさせて書きましょう！)

三 発表内容についてまとめよう！ (四〇〇字程度)

プレゼンテーションをするときの順序や構成を練ろう！

↓

↓

《初読の感想と発表後の感想を比べて自己評価できるワークシート例》

第六次 (第九時)	第五次 (第八時)	第四次 (第六時・七時)	第三次 (第四時・五時)
初読の感想と学習後の感想の違いなどについて振り返らせ、何人かに発表させる。(自)「評価」	自分の発表を終えて、またほかの人の発表を聞いて、気づいたことやわかったことを感想欄に記入する。	* 発表を聞いての感想・評価を記入できる名簿のようなものを配布し、発表を聞きながらメモができるようにする。漫然と聞くのではなく、視点・考え方・情報ソース・プレゼンテーションの方法などが、自分と同じか違うかに注意させたい。	自分が調べた資料をまとめて、プレゼンテーションやスピーチの準備を整える。 発表時間は一人一分程度(原稿用紙一枚分くらい)に設定し、ワークシートに記入する。 ワークシートや自分で用意した資料を使って発表する。

四 この学習のポイントとなること

第一のポイントはワークシートの工夫である。ワークシートを効果的に利用し、学習材を一読した直後の思いや感想と、調べて発表し合う学習をした後の感想とを比べて、自己評価ができるような学習を考えてみたい。

第二のポイントは、課題の設定と資料収集である。学校の図書室の利用や、PCルームでのインターネットの利用なども考えられるが、資料の不足については、参考となる図書の目録やインターネットのホームページなどを例示しておいて、生徒が放課後や帰宅後に資料を探す作業の支援をすることが必要になるだろう。新聞や雑誌テレビのように家庭にある情報ソースの利用を勧めることは、学習の日常化を促すことにもつながるだろう。

また、課題の設定が難しい生徒には、こちらからいくつかの候補を提示して、その中から選択させる方法をとったり、逆に関係資料にあたるうちに課題の設定ができるように促したりすることが必要だろう。

第三のポイントは学習形態である。生徒個人単位での学習が困難な場合は、グループを設定して、グループごとに壁新聞を作成させたり発表をさせたりするなど応用していける学習形態であると思う。